

## 乙部 延剛

### 法学研究科・教授

#### 【研究】

近年取り組んできた、20世紀の日本政治思想の研究については、小林秀雄の「物」観について、丸山眞男および現代の「新しい唯物論(New Materialism)」と比較しつつ解明した英語単著論文が、International Journal of Asian Studiesに査読の上掲載が決定し、Online first viewについては既にオンライン上で公開されている。また、2022年度は昭和期の経済学者、評論家、歌人である大熊信行の技術論に関する研究に着手した。大熊については、2023年8月にベルギーで開催予定のEuropean Association for Japanese Studies研究大会に概要が採択され、報告予定である。

西洋政治思想史に関しては、Hiruta Kei, Hannah Arendt and Isaiah Berlin (Princeton UP, 2021)に関する合評会(2022年6月)での報告をもとにした書評論文を、Journal of Japanese Studiesに投稿した。また、昨年度着手した卓越主義をめぐる研究を進めており、その一端を論文集へと寄稿する予定である。

#### 【教育】

学部、大学院の教育に引き続き注力した。学部の演習では、課題としてゼミ論文を課し、個別に作成の指導(研究計画への助言や草稿のチェック)を行うことで、リサーチ能力や表現能力を養えるよう工夫している。学部の講義では、毎授業後、内容に関する質問を集め、次回授業に答えることで、受講生の理解度を高めるよう努力している。

また、通常の授業に加えて、2023年3月には、大学院生・助教等を対象にした「公募書類の書き方セミナー」を学生支援室・教務委員会主催で行い、講師をつとめた。今後も大学院生のキャリアや研究に役立つような機会を設けていきたいと考えている。

なお、大学院教育に関連して、2022年秋に特任研究員としてラッセ・マセン教授(ロンドン大学クイーン・メリー校)をお招きし、基調講演者としたミニ・シンポジウムを学外の研究者・大学院生も交えて開催するとともに、スタッフ・セミナーとして、同教授に英語圏での留学や出版に関する意見交換会を開催した。学部生、大学院生が国外の研究者と交流する機会は今後も積極的に設けていきたい。

#### 【管理運営】

部局内では法学研究科教務委員、国際交流室室員をつとめるほか、欧文紀要の編集にあたっている。

全学では、マルチリンガル・エキスパート協議会の委員ならびに人文社会科学系オナー大学院プログラム教務委員会に所属し、それぞれの業務に従事している。

#### 【社会貢献】

日本政治学会の2022年度大会企画委員をつとめ、2022年10月の研究大会まで、大会の企画、運営にあたった。

一般向けの活動として、ヨーロッパ・東欧を基点とし、米政府が支援する国際放送Radio Free Europe/Radio Libertyより「愚かさ政治」についてインタビューを受けた。当該インタビューはベラルーシ語に翻訳の上、当該メディアのHPならびにyoutubeで公開されている。

また、2020年刊行の拙著Stupidity in Politicsについて、2023年1月にAsia Theories Network主催で米国・韓国・台湾・日本をベースとする研究者が集い、「Stupidity & Politics」という題目でオンライン書評シンポジウムが行われた。同シンポジウムについてはyoutubeで公開されている。

くわえて、参画する国際的な研究ネットワークAsia Theories Networkが母体となって発行するオンライン誌Critical Asia Archivesの編集委員(Editorial board)をつとめており、June 2022 issueについては巻頭言の執筆を行ったほか、内容の企画等に関与している。